

表層の物語、深層の「真情」

— 『天涯客』から『山河令』へ

池田 智恵

1 はじめに

『山河令』（全36集）は2021年2月22日に中国の動画サイト「YOUKU（優酷）」¹⁾にて配信が開始されたネットドラマである。放送が開始されてから人気を呼び、3月26日に完結を迎えた際には、14.29億回再生され、豆瓣では30万の観衆により10点満点中の8.6点を獲得した。同時に動画サイトの「YouTube」²⁾でも配信され、5000万回以上の再生回数を記録したとされている³⁾。

原作はPriestのネット小説『天涯客』であり、これは大陸においては「純愛」、元は「耽美」というジャンル、男性同士のラブストーリーを描く、いわゆるBL小説作品である。ただし、原作はBL作品でも、気をつけておきたいのは、『山河令』は『陳情令』に代表される「耽改劇」作品であることだ。

この作品は2021年8月21日に「YOUKU」から下げられており、中国国内では現在（2021年11月）視聴不可能である⁴⁾。国外では、「Netflix」やamazon「Prime Video」で配信、日本では2021年8月12日から「WOWOW」で放送されている。

このドラマは、中国では、2021年2月の配信開始後より爆発的な人気を呼んだ。5月3日、4日には「生来知己」をテーマとしてドラマの「演唱會」が蘇州で開かれ、同時にオンラインでも「YOUKU」と「YouTube」で中継された。「YOUKU」では二日間合わせて4000万近くの視聴数を記

録した⁵⁾。主演俳優二人も「頂流」と呼ばれるほどの人気を博し、2020年前半期で最も人気を得たネットドラマとも言われたが、嵐のように観衆の目の前を過ぎ去っていったとも言えるかもしれない。

ネット小説から「耽改劇」への改作については、女性との恋愛をするエピソードを挿入したり、「兄弟情」として処理することが断片的に知られているが、実際にどのように書き換えられているかは、ドラマごとに処理は異なり、詳しく検討されてはいない。そこで、本稿は、『山河令』を取り上げて、原作『天涯客』との比較を行うことにより、「耽改劇」として原作から如何に飛躍し、どのような物語として成立し、読まれる可能性があったかについて考えてみたい。

2 ネット「耽美」小説と「耽改劇」

まずはインターネット上の耽美小説と「耽改劇」、また『山河令』とその原作『天涯客』について整理しておこう。

2-1 ネット「耽美」小説と耽改劇とは

本稿では中国における男性同性愛を題材とする、主に女性読者向けエンターテインメント作品について、そのジャンルの呼称を、プラットフォームによっては「純愛」とすることもあるが、便宜上「耽美」を使用する。

2-1-1 ネット「耽美」小説について

いわゆる中国の「耽美」小説は、現在までの研究によると、日本の1970年代頃に発展し始めた耽美、JUNE、後にBL（Boys' Love）と呼ばれたものに端を発するとされる。これらの呼称やジャンルについて定義することは大変困難なため、本稿では便宜的にこう書いておく。90年代末にインターネットを通じて尾崎南、CLAMP、後藤しのぶ、秋月こお等の作品が、中国大陸で閲覧され、特に「80後」の人々を中心に人気を博したとされる。

これを受け、同時期にも中国大陸では、さまざまな同人創作などが試みられるが、2003年に「晋江文学城」が作られ、以後代表的な女性向けのオリジナル小説を掲載するネット小説サイトになっていく。この中で多くのオリジナル「耽美」小説作家が生まれた。統計によると、2003年から2010年のうちに当該サイトで「純愛」ジャンルで発表された「耽美」小説は、500から42600に増えている。

「耽美」小説は、90年代末からインターネット空間でジャンルとして大きく成長したと言えるだろう。

2-1-2 「耽改劇」について

2010年代半ばからIP（Interlectual Property）、つまりネット上で発表された小説を原作としたドラマが製作されるようになるが、「耽美」小説においても例外ではなかった。2014年にはAngelinaの『你是男的我也愛』が『類似愛情』として映画化されたが、それほど注目されなかった。だが、翌年「耽美」ネットドラマ『逆襲』が配信されると、四週間のうちに2000万のヒット数を記録した。これより、「耽美」題材のドラマが制作されるようになり、2016年は16作品に及ぶ数のドラマが制作されたため「耽美劇元年」とも呼ばれている。当初は、「耽美」劇として、オリジナルの「耽美」小説をシナリオにして制作されていたが、注目を集めていくに従って、次第に風向きが変わってくる。2016年に柴鷄蛋の小説『你丫上癮了』を改編したネットドラマ『上癮』は、2016年1月29日から配信を開始し、2月22日にまだ配信途中で、ネット上から下された原因は不明とされている⁶⁾。他のドラマでも配信中止などがあり、次第に原作をそのまま映像化するのではなく、原作におけるキャラクター間の感情を薄めて描く「耽改劇」と言う方法によって映像化されるようになっていく。多くのインターネット「耽美」小説の映像化において、直接男性二人の恋愛要素自体を無くしてしまったり、同性間の恋愛感情を「兄弟情」にすり替えたり、シナリオにす

る段階で女性のキャラクターを加えて、男女のラブストーリーに書き換えてしまったりする。こうした処理により、2018年のPriestの同名小説の映像化である『鎮魂』は優酷、2019年の墨香銅臭『魔道祖師』を改変した『陳情令』は騰訊で配信され、2020年水如天児の同名小説を改変した『鬢邊不是海棠紅』（邦訳：君、海棠の紅にあらず）は、北京衛視で放送された。つまり、「耽改劇」は、ネットのプラットフォームから地方局でも放送され、文化的階層を突破したと言われた。その後、すでに多くのファンを獲得しているネット「耽美」小説の映像化は、多く注目を集め、晋江文学城のそうした作品が多くの会社と契約を結ぶに至っている。

「耽美」小説を改変した「耽改劇」は、圧倒的なファンを背景に中国のメジャーなエンターテインメントの世界に食い込んだとも言えよう⁷⁾。

2-2 『山河令』と『天涯客』について

こうした「耽改劇」の発展を背景に制作されたのが『山河令』である。『山河令』は、「YOUKU」の制作で、監督は成子瑜・馬華乾・李宏宇、脚本は小初で本作は彼女のデビュー作にあたり、プロデューサーには馬韜が名前を連ねている。

2021年2月22日に「YOUKU」で配信され、5月28日からNetflixで190余の国と地域で配信された。これまでに、『山河令』はすでに、Amazonの「PrimeVideo」や、YouTubeの優酷チャンネルなどの海外のプラットフォームで配信されており、YouTubeでは、5月28日の報道によれば、億の再生回数を突破したとされている⁸⁾。IMDbでは9.0の評点がついており、すでに豆瓣の評価が高いのは冒頭に書いた通りだが、海外においても観衆からの評価は高い⁹⁾。

こうした爆発的な評価と人気を得た本作品だが、8月21日に優酷のプラットフォームから下され、現在中国大陸では見ることができない。

このドラマの原作である『天涯客』は、例に漏れず、晋江文学城で連載

された「耽美」小説である。作者は Priest、Priest は 2008 年から晋江文学城で小説を発表し始め¹⁰⁾、約三十作ほどの長編小説を書いており、ジャンルとしてはいわゆる「耽美」のほか、男女ものの恋愛小説があり、人気を博している。前述のドラマとなった『鎮魂』も Priest 原作であり、その他多くの作品がメディアミックス化されている。中華圏においてはこうしたジャンルの代表的な書き手の一人である。

『天涯客』は、全 77 章に 6 編の番外編があり、およそ 29 万字の長編小説である。2010 年 10 月 7 日から連載され、2011 年 1 月 18 日が最終の更新日となっている。この小説は、Priest が 2010 年 6 月 13 日から 2010 年 10 月 2 日に同じく晋江文学城で連載した『七爺』に登場した周子舒を主役に据えたスピンオフ作品である。台湾の蘊藏文化股份有限公司から『天涯客 上冊 琉璃甲』（2014 年 2 月）『天涯客 下冊 山河令』（2014 年 3 月）として出版発行される¹¹⁾が、現在はいずれも絶版である。本稿は、晋江文学城において 2021 年 8 月から 9 月にかけて公開されていたバージョンを使用する。

2-3 先行研究の整理

先行研究を整理しておこう。中国大陸では、中国のネット「耽美」小説や「耽改劇」に関する研究は多くない。また日本ではまだ研究の端緒にもついていない。数少ないが分析すると、①「耽美」小説が耽改劇として、人気を博していく「耽美」文化の発展について論じたもの、② Priest の作品については、その武侠題材の小説をその変遷を辿ったもの、③『山河令』に関しては、そのドラマ自体への読みというよりは、爆発的な人気を博したドラマ『山河令』とそれにまつわるブームメントについて論じたものがある¹²⁾。

つまり、ドラマやその原作を比較して読み込んだものはない。そこで、まずはこの原作とそのドラマ化作品の話の差異を確認し、特にドラマがどのような世界を展開し、そこにいかなる読みの可能性が発生したかについ

て考えてみたい。

3 表層に現れる物語

この物語の歴史的背景ははっきりとしない、いわゆる江湖という武侠小説のファンタジー世界を背景にしている。主人公は周子舒と温客行という二〇代後半と思われる男性キャラクターである。周子舒は暗殺組織天窗の「首領」であり、温客行は江湖で行き場のない人間やならず者の吹き溜まり鬼谷の「谷主」として描かれる。この背景とキャラクター設定は、原作・ドラマともに基本的に同じである。江湖を舞台とした武侠小説としてどう読めるかという話の骨格について、両者について、あらすじを把握する意味でも、確認しておこう。

3-1 権力から解放される二人のアウトローの物語としての『天涯客』

原作『天涯客』における周子舒は、天窗というスパイと暗殺者からなる組織に所属¹³⁾、かつそれは、皇帝直属の組織¹⁴⁾である。周子舒は四季莊という武術の一派の若き統領として皇帝に帰順したが、生き方に疑問を抱き、組織からの脱退を決意する。他の成員が脱退するのと同じように、七窮三秋釘と呼ばれる釘をうち、自らの経脈を封じ、五感を次第に失って死ぬ運命を選び、寿命に二、三年という限りをつけ天窗を後にする。変装術で顔を変え、周は江湖をさすらい自由を満喫するが、ある時、琉璃甲という、武林の秘籍を集めたとされる武庫を開けるための鍵をめぐる謎に巻き込まれる。それは数個にわかたれて、武術門派に保存されていた。周は、南河庄が襲撃され張玉森の遺児となった張成嶺を太湖の趙家庄まで送り届けることになる。その騒動の中で、周は謎に満ちた温客行という男と、おつきの顧湘と知り合う。温客行は程なく、周が変装術で顔を変えていることを見破り、腕がたち、只者ではない様子を見せる。温客行は実は、鬼谷というならずもの集団の鬼主であった。彼はある目的のために江湖を徘徊

していた。周はやがて、引き受けた通りに張成嶺を太湖に送り届けるが、同時に琉璃甲をめぐる武術の派閥の争いと、鬼谷の主の座をめぐる争い、かつ武林は琉璃甲を奪うための襲撃が鬼谷によって引き起こされたものと断定し、鬼谷討伐をするという流れに周は温とともに巻き込まれていく。その中で「山河令」という号令が発せられ、江湖の結びつきを確認するための腕の立つものが集まり合う大会などが描かれ、その中で高崇や趙敬らが琉璃甲への野心を見せ、高などは殺されてしまう。そうした襲撃を交わしながら、山河令の号令大会で劍仙葉白衣などとも出会う中で、周と温はお互いの正体に見当をつけ、かつ琉璃甲をめぐる謎の裏に三十年前に起きた容炫といった人物の悲劇が存在することを突きとめる。

二人は、葉白衣とその謎を解明するために傀儡莊の龍雀をたずね、琉璃甲の来歴と武庫にはもう一つ鍵が必要だということ、三十年前の出来事の真相を龍雀の口から聞く。温は龍雀の要望で彼に引導を渡す。龍雀の死後、周、温、張成嶺の三人は、桃源郷のような傀儡莊に一年ほど逗留する。

周は、その後洛陽に行き以前に襲撃を受けた蠍子の雇い主を突き止めることにする。そして、彼らは蠍子の統領である毒蠍にあい、彼らと鬼谷の一部の不满分子が、趙敬と手を組んで陰謀をめぐらせていたことを突き止める。周は、温と共に生きる中で自分に打った七窮三秋釘の効力をなくすために、友人の七爺と大巫に頼り、大巫の医学的な力によって養生し、回復する道筋を見つける。

周は、治療に専念するために温と別れるが、温は自らの運命に決着をつけるために鬼谷のある風崖山へ戻る。彼は趙敬らの陰謀をすでに察知しており、自分の親を殺し、自らを鬼谷へ落とした趙敬を殺すために、動いていたことが明かされる。一方、温のおつきの顧湘は莫懷陽の弟子である曹蔚寧と恋仲になり結婚することにするが、莫懷陽は反対し、風崖山の麓で二人を殺す。折りあしくも同時に、鬼谷の主の座をめぐる陰謀も発動し、武林の英雄たちと、鬼谷、また毒蠍らが殺し合いを始める。温は、趙

敬を殺すも、顧湘の仇である莫懷陽との戦いで瀕死の重傷を負い、毒蠍にすんでのところで殺されそうになるが、あとをつけていた周に助けられる。二人は生き延びて、周の治療のために長明山に登り、周は三ヶ月間昏睡状態となり、その後目覚める。そうして二人は共に生きていくことを決心する。

以上の話は、天窗と鬼谷といういずれも江湖のアンチヒーローといっても良い二人が、さまざまな陰謀に巻き込まれながらも、周は、暗殺者としての自分に釘を打つ、それから解放される、温は自らの過去の敵をうつことから、過去から解放されて、お互いの存在を見つけ、二人で生きていく道を見つける。かつ、この二人は恋愛関係となることが書かれている。

これは縁もゆかりもないアウトローの二人の男性が、出会い、権力や過去のくびきから脱し、新しく一緒に生きていくことを選択することが描かれている物語に見える。

3-2 お家再興ものとしての『山河令』

ではドラマ化作品ではどうなっているのか見てみよう。まずはタイトルが当初は『天涯客』で制作されていたが、配信時は『山河令』に変更となった。

前に紹介したあらすじから改変部分を主に取り上げて筋を追っていこう。まず、周子舒が所属していた天窗は皇帝に仕えるのではなく、晋王という人物に仕えており、晋王は密かに天窗という走狗を養成し¹⁵⁾、朝廷に謀反の意思を持っていることが示される¹⁶⁾。(第一話)周は皇帝に謀反を企む晋王の手先の暗殺者集団「首領」として描かれる。周は四季山荘という武術門派を年若くして継ぐが、うまく経営することができず、従兄である晋王に帰順して天窗を作るのだが、それすらうまくいかず、四季山荘から連れて行った門派の「兄弟」たちも一人一人と命を失い、周自身が門派の最後の一人であることが強調される。それは周が壁に描かれた白い梅の花に赤

い色を塗っていくシーンがあるが、花は四季山莊の成員を表しており、一人一人死ぬ毎に赤く塗られ、最後に残された白い花が周自身であることから明らかである。

自らに「釘」を打って江湖に逃れ、温と顧湘に出会う。この辺りの流れは基本的に大きな変化はない。

その後、琉璃甲の謎にまつわる部分などの人間関係が、原作より整理され江湖の各門派や同盟関係を背景にしながら、展開されていく。周は、鏡湖派が襲撃されたのに際し、鏡湖派唯一の生き残り張成嶺を、太湖派の趙敬まで送り届ける羽目になる。こちらでもやはり五つに分かれた琉璃甲をめぐる謎が展開される。五つの琉璃甲の破片は五湖盟という五人の義兄弟たちの各門派に一つずつ分けられていた。それら門派への襲撃事件の背後には、鬼谷がおり、琉璃甲を集め武庫を手に入れようとしていると五湖盟は考える。五湖盟の盟主である高崇は、鬼谷討伐のために山河令を発し、それに呼応して劍仙・葉白衣も下界に降りる。そうして英雄大会という鬼谷討伐のための決起集会を開くが、そこで高崇は琉璃甲を独り占めしようとしているという濡れ衣を着せられて虐殺される。

周は、温が高崇を恨んでいることを知ると温が琉璃甲をめぐって過去に起きた悲劇の関係者ではないかと疑う。二人と張成嶺（周に弟子入りする）、葉白衣は、過去の謎を解明するために龍淵閣に向かう。そこで、過去について知る龍雀に出会い、琉璃甲の過去を知り、かつ、温の驚くべき正体に周は気がつく。温はかつて生き別れた師兄弟の甄衍であった。甄衍の両親は武庫の二つ目の鍵を持っているとして鬼谷に終われ、甄衍は四季山莊に弟子入りするも、鬼谷に両親が殺された際に助けが間に合わず、鬼谷に墮ち、そこで成長し、谷主となったのだ。

周は、温と張を伴って四季山莊に戻り、そこで春節を過ごす。その後に、周を追う晋王の手が伸び、周は連れ去られるが、その後温が鬼谷の鬼を伴って助け、その際に、周に四季山莊への帰順を宣言する。

周が晋王に連れ去られた際の深傷を癒やし、「釘」の効力を無くすために大巫の医療行為を受けている間に、温は自らの過去と決着をつけようと、鬼谷討伐に出向いた五湖盟の目の前にあらわれる。それを聞きつけた周はその場に駆けつけるが、目の前で温は崖下に落ちていく。

温が死んだと絶望した周は、彼の仇を打つために、自分の経脈を封じていた「釘」を内力で取り去り、武功を取り戻し、大巫からもらっていた五日は命をもたせると言う丸薬を飲む。亡き高崇の後に五湖盟の盟主となった趙敬が開いた鬼谷完全討伐のための壮行会英雄大会に参加する。趙敬こそが、温の親の仇であった。趙敬の前に周が立ちはだかった時、温が「温客行」という人間として姿を現し、趙敬との一騎打ちを挑んで、四肢を効かなくさせて、仇を打つ。

温は、葉白衣や張成嶺らと示し合わせ、崖から落ちて死んだふりをしたのであった。周はそれを知り驚愕するが、自分の命があと数日とは口に出せない。

その後、顧湘と曹蔚寧の婚礼が鬼谷で行われる。その日曹蔚寧の師匠である莫懷陽が婚礼の贈り物の名目で自分の配下と共に鬼谷に入り、顧湘、曹蔚寧、鬼谷共々虐殺する。温は瀕死の重傷を受けながらも莫懷陽を殺して、顧湘の仇を打つ。

温が怪我を治す間、周はかつて仕えていた晋王がついに武庫の鍵を手に入れ、開けに行くのを知る。周は大義のためにそれを阻止しようと武庫のある雪山に向かう。晋王の軍勢と渡り合い、雪崩が起こり死を覚悟したところで温が姿を現し、武庫を開けて中に入り九死に一生を得る。

温は葉白衣より周が「釘」を抜いたがために余命いくばくもないことを聞いており、「六合心法」を行うことにする。自らの命を賭して周を救う唯一の方法であった。温は自らが命を失うことを、周には言わず法を行う。周が、全ての経脈を蘇らせて目を開くと、視界に入ったのは、白髪となった命を失おうとする温の姿であった。

その後、数十年後と思われるシーンにうつり変わる。成長した張成嶺が弟子たちに温と周の師兄弟の「同生共死」の絆の深さについて話しているところで、ドラマは終了する。

こうして、あらすじをまとめてみると、周子舒と温客行の二人のキャラクターの深い絆について描かれているのは原作とは変わりないと言えるだろう。だがいくつか重大な変更点があるのも確かである。

まず二人は恋愛関係としては、直接的な台詞などを使用しては描かれなない。代わりに、温客行は原作では周とは何の縁もない人物であるが、ドラマでは、生き別れの弟弟子「甄衍」として描かれる。甄衍は原作には存在せず、二人の関係にドラマ独自の設定がされている。

原作では傀儡荘で周・温・張の三人が一時期暮らしたが、ドラマでは四季山荘という周の門派の屋敷で暮らしている。

実は、ドラマにおいてはこの四季山荘がキーポイントとして描かれる。

周は、温の仇討ちを助け、かつ朝廷に仇なす晋王の手先ではなくなった四季山荘の周は大義のために晋王の軍勢に敵対する。周にせよ、温にせよ、元は江湖の正道をいく四季山荘の門弟として暮らしていけるはずであったが、運命の皮肉からそれが叶わず、一人は皇帝への謀反を企む人間の走狗に、一人は鬼谷の谷主へと落ちるが、二人が出会うことにより、二人とも正道（四季山荘）に戻る話となっている。

温は周を助けて、四季山荘に帰順し、さまざまな欲望により汚れた江湖の仇を排除し、最終的に自分の命を捧げて兄弟子を生かし、兄弟子が再興したと思われる四季山荘を弟子の張成嶺が継ぐ話となっている。

つまり、ドラマはその話の骨格自体がおそらく原作から異なっている。

四季山荘という武術一派が一度落ちぶれて、その幼い成員でどちらも江湖の正道をいけるはずだった周と温が、周は皇帝への謀反人の手先として生きざるを得なくなり、温は奇しくも邪道に行く羽目に陥り「鬼谷」の主

となる。前者は、権力に使われる人生を嫌い、江湖を放浪することを選択し、後者は彼にその運命を強いた江湖の盟主たちに復讐するために江湖に出る。その二人が出会って、お互いが師兄弟であったことを発見し、お互いが過去の呪縛に抗い、正道に戻り、新しい自分としてともに生きることを決めていく物語であり、これは、武術の一門とそれを支える人が正道に戻り、再興していく話となっているのである。

4 深層に潜む「真情」

物語の外殻だけを追っていくと、武術の一門の再興の物語と読むことが可能だが、『山河令』の実相はかなり複雑であり、ドラマを見ると現在述べたあらすじとは異なる印象を持つだろう。この作品は、多くの古典文献の引用¹⁷⁾、また暗喩、演出などによって、表向きだけではわからない、かなり複層的な作りになっている。それらについて全てを論じることはできないので、ここでは、ドラマに描かれた原作には存在しないものから読み出せる可能性について考えたい。そこで、簪という角度から考えてみたい。

4-1 複数の簪が語るもの

『山河令』には、三つの異なる簪が登場する。一つ目は、周子舒の弟弟子である九霄が恋人である静安郡主に送った手作りの簪（第一話）、二つ目は、温客行が母親から託され、その後周子舒に送った簪（第32話・第36話）、三つ目は、顧湘の婚礼で使用する、羅浮夢（喜葬鬼）の婚礼で使用するはずだった簪（第34話）である。

簪は、古来より中国の文学作品に登場する。漢代の古楽府「有所思」（『楽府詩集』卷一六 鼓吹曲辞一 漢鏡歌）にも、「何用問遺君 / 双珠玳瑁簪」と恋人に簪を送ろうとする女性が歌われている。山崎藍は唐代までのかんざしを詠んだ詩と唐代の白居易「長恨歌」を分析し、かんざしの破壊が多くの場合は、女性の（情愛的な）不幸を象徴するものであり、白居易によ

ってかんざし詩の新たな潮流となる、かんざしを裂いてその一片を相手に贈ることにより、愛の深さや強さを詠む表現を確立したと指摘している¹⁸⁾。つまり、簪は男女間の情愛の描く際に使われてきたモチーフと言えるだろう。

以下の三つの簪にまつわるエピソードはいずれも原作には存在しておらず、ドラマ改編による読みの可能性を考える一つの手がかりとなるだろう。

まず、『山河令』の中で簪がどのように描かれているのか見てみたい。

周子舒は第一話の冒頭で、晋王の謀反を朝廷に報告しようとする節度使を暗殺し、その娘（静安郡主）に自害を強いる。今際の際の娘の手に木彫りの簪が握られており、周は自分の亡き弟弟子がいつか彫っていたものと気づく。「もしお前に心から慕っている娘がいるなら、兄弟子のわたしも嬉しい」¹⁹⁾と、弟弟子に声をかけていることを回想する。静安郡主は「前に彼がわたしに言ったのです。彼のお役目が終わっていなかに帰る時には、一緒に暮らそうと」²⁰⁾と言い残す。そこで周は、弟弟子が静安郡主と恋仲であり、自分が作った簪を静安郡主に渡していたことを悟る。ここでは、簪は将来を誓い合った二人の愛の約束の象徴として描かれているとも読み取れるだろう。

では次に、34話に登場する鬼谷で行われる顧湘の婚礼の際に使用される簪について考えてみたい。この簪は前者と比較するとより複雑である。

顧湘の婚礼衣装を着付ける段で、おつきの娘たちは「まさかわたしたちの谷で、婚礼なんておめでたいことをやる一日が来ようとは」²¹⁾と谷をあげての祝いごとであることが示される。温客行の「お前が嫁入りする時は、通りが三ついっぱいになるだけの嫁入り道具を準備してやると言ったじゃないか」²²⁾と所狭しと嫁入り道具が並べられている。

そこに、喜葬鬼（羅浮夢）と艶鬼（柳千巧）がやって来て、喜葬鬼が、「この簪は、わたしがお嫁にいく時に、師父がくれたものだった」²³⁾と簪を取り出して顧湘に譲ると言う。「羅姨のつきの悪さがあるとは思わないで、これは使っていないのよ」²⁴⁾といい、簪は、師父がくれたもので、師父夫

婦は「和睦」で「子孫満堂」であったと続ける。

喜葬鬼はかつて『山河令』の黒幕である趙敬と婚礼をあげるはずだったが、趙敬が裏切ったため、婚姻できず、それが原因で鬼谷に入り、十大悪鬼の一人「喜葬鬼」になったのであった。顧湘の婚礼にけちがついてはいけないと、婚礼が破談になったことのある彼女は、婚礼の場から離れる、と言い張る。顧湘は不服に思うが、喜葬鬼の簪を喜んで艶鬼に挿してもらう。

だが、皮肉なことに、その簪をつけた顧湘は、新郎の曹蔚寧、そして谷にいる多くの薄情司と呼ばれる娘たちや喜葬鬼・艶鬼共々、婚礼の場で殺されてしまう。

つまりここでの簪は、嫁入り道具の一部で、喜葬鬼の果たされなかった婚束の象徴であるとともに、顧湘と曹蔚寧の果たされない一生の誓いの象徴とも読み取れるのである。

この二つの簪からは、『山河令』において、簪が思い合う二人の生涯の誓いを象徴するものとして、かつ、そうした生涯の約束が、うまく果たされない予兆としても機能していると考えられるだろう。

4-2 男性から女性キャラクターへの変更が開く回路

こうした簪の読みの回路を可能にしているのは、上述からも明らかだが、『山河令』における女性キャラクターの存在である。

次に、もう一つの簪について考える前に、『天涯客』から『山河令』への変化の中で、キャラクターの性別が変更されているものや、キャラクター自体が作られたものがあるが、それらについて注目しておこう。

そうした性別変更キャラクターの中では、喜葬鬼とその周辺がおそらく最も重要であり、簪のエピソードにも関わり、かつこのドラマの底に流れるものとも関係していると考えられる。

喜葬鬼は原作では男性キャラクターであり、鬼谷の谷主の座を狙う悪役

として描かれている。だが、ドラマでは、女性に変更され、元の名を羅浮夢と言う。彼女は、鬼谷の十大悪鬼のうちの一人である。

原作では、鬼谷の中の女性についてはほとんど描かれぬのだが、『山河令』の鬼谷にはさまざまな雑事を行うと思われる薄情司という組織に属す白装束を着た若い女性たちが描かれている。そしてその薄情司を統べる「薄情簿主」が喜葬鬼である。

喜葬鬼と薄情司が一体どのような存在なのかは、第5・7話から類推できる。

第5話で、断剣山荘の穆雲歌が眠っていると、女が胸元にのしかかってくる。穆は目を覚ましてぎょっとする。峨眉派の莫燕婉と恋仲であったが、死んだはずの彼女だったからだ。幽霊かと慄く穆に女は、「そうよ、幽霊（原文：鬼）になったの。一つの死体に二つの命、わたしたちの生まれなかった子供を孕って、断剣山荘の麓で麻縄一本でくびり殺されたの」²⁵⁾ と言う。彼らは元は「空には比翼の鳥となり、地には連理の枝となる」²⁶⁾ ことを誓っていたが、男は女が孕んだために、裏切って殺したことが明かされる。女は、「今となっては、わたしは地中にいるのだから、あんたもわたしたちに付き合うのよ」²⁷⁾ と凄む。そこで男は気を失う。

この女の正体は、変装をした艶鬼である。鬼谷はこうした男の薄情によって犠牲になった女たちのために、その原因となった男を懲らしめていることが示唆される。

第7話では、縛られた穆雲歌が鬼谷の十大悪鬼の前に新郎として引きずり出され、莫燕婉の位牌が横に新婦として並ぶ。喜葬鬼を「氷人」として婚礼が行われる。その際に、喜葬鬼についてこう語られる。「薄情簿主喜葬鬼は、天下の（愛情についての）裏切る人間を殺し尽くす」²⁸⁾ のであり、今回も穆雲歌に裏切られて莫燕婉が死んだことを知り「今日はこの正義を執り行う」²⁹⁾ と言う。この婚礼の余興も興味深い。穆雲歌は断剣山荘と言う武術の門派の人間であり、その友人ら十人も一緒に捕まっている。十大悪

鬼は、殺し合いをして、十人の「少侠」のうち一人だけが生き残れると告げる。武術門派の名前に恥じないように、と争いをやめようと一人が訴えるが、皆殺し合いを始める。

つまり、江湖を支える立派な門派の子弟が、女を裏切ったり、殺し合いをしたりしている、という江湖の腐敗と、その下に潜む女たちの苦しみが見え隠れしていると読むことが可能だろう。

そうになると、鬼谷の薄情司の娘たちとは一体誰か。

これはおそらく死んだ莫燕婉と大同小異の娘たちであろう。男に裏切られ表の世界では生きられなくなった女たちが「鬼」として集うのが鬼谷の薄情司であろうと考えられる。現に、その主人の喜葬鬼もかつての婚約者であった趙敬に裏切られた女性であり、また艶鬼こと柳千巧も妻帯していた于丘烽と恋仲になり、妻の嫉妬によりひどい裏切りにあつて心身ともに傷ついた過去がある。かつ彼女らの相手は全て江湖における好漢をもってなる人物たちである。

つまり、この性別を変更されたキャラクターや、他の女性キャラクターの存在により『山河令』には、原作とは異なる回路が開かれている。

作中でも繰り返される「男子薄情、女子薄命」という言葉通り、鬼谷に集う女たちがこうした物語を背負っており、江湖においてひどい裏切りを受けた女性たちを描くことも根底にもった作品であることが指摘できるのである。

4-3 対等な関係を求めて

第20話において、喜葬鬼は記憶が混濁した前後不覚状態に陥り、趙敬に裏切られた当時は思い出し「君不負我、我不負君」という言葉を繰り返す。これは愛した人が自分を裏切らないのであれば、自分も裏切らないという意味であり、ここからはお互いに対等な関係を持ちたいという願望が透けて見える。

『山河令』には様々な人間関係が重層的、かつ変奏し合いながら描き込まれている。

喜葬鬼や艶鬼もひどい裏切りにあって「鬼」となっても、かつて関係した男たちの江湖における野心に振り回され、まさに「君不負我、我不負君」が彼女たちを悩ませる。

彼女たちは自分が愛した人間と「君不負我、我不負君」を果たす関係を結ぶことを欲しているのであり、そうしたなかで簪とは、前述したことに加えて、対等な関係の誓いと読むことも可能である。

こうした人間関係に苦しむ女性たちに気づくと、『山河令』は興味深い回路が開く。

実は、主人公の男性キャラクターたちをこうした人間関係という角度から見てみると、周は晋王という彼を束縛する存在からの脱却を、温は両親を殺した鬼谷と江湖に復讐しようという全ての関係を破壊することを目指したと考えれば、彼らも「君不負我、我不負君」に通底する、公平な人間関係を望んだと考えられるだろう。彼らは全ての人間関係を清算する過程で出会い、両者が新たな人間関係を築いていく。第9話では、中唐の詩人である鮑溶の「壮士行」の一部として「山河不足重，重在遇知己」が周のセリフとして引用されており、彼らの関係は「知己」という言葉に集約されていく。

ではこの両者の間での簪について、考えてみよう。

第32話で、温客行は、鬼谷の谷主として姿を現し、晋王の元へ連れ去られた周子舒を助け出し、四季山荘への帰順を宣言する。

「鬼」として生きてきた温が、過去を清算して人として生きることを決意した場面であるとともに、その場に一九人の四季山荘への弟子もいることが語られ、周にとってなくなったはずの四季山荘が復活し、周が、晋王の犬としての身分を捨て去り、再び正道の「莊主」となることが語られる。両者には隠すべき過去は存在しなくなったのである。

そして、『山河令』の第三の簪はこれに続く場面に登場する。二人が四季山荘の復活について話していると、温客行は、自分の髪に挿さっていた簪を抜き取って、周子舒の髪に挿し、周子舒がその顔を丸い鏡にうつして微笑んでいるのが映される。この間にはセリフはない。

温が周に出会ったドラマの冒頭から、周に対して女性について詠んだ詩などを引用しており³⁰⁾、温から周に対する友情以上の感情は作中では示唆されている。

この場面は、前に見た『山河令』に見る簪の意味に照らし合わせれば、周と温が生涯添い遂げるといふ誓いとして、かつ、彼らが対等な関係を実現しようとしていると読むことが可能になる。

つまり、周と温は「知己」としての関係性を作り上げていたが、その裏には、実は本来の意味での「知己」に加えて、過去や「江湖」でのそれぞれのしがらみを全て清算した後に、対等な関係として一生一緒にいるといふ誓いをたてたと解釈が可能になる仕組みが用意されているのである。

4-4 簪が開く可能性

『山河令』における簪は、単純な誓いとしては機能しておらず、九霄と静安郡主のものにしろ、顧湘のものにしろ、どちらも誓いあってはいるものの、今生では結ばれない二人の予兆としても機能している。

温と周に関しても同様である。第36話で、周は晋王に武庫を渡すことを阻止するために単身武庫のありかである雪山に乗り込む、そこで雪崩に巻き込まれそうになった時に、温があらわれ、周の頭から簪を抜き取り、それを鍵と変化させて扉を開き、その中に入って九死に一生を得る。温が周に託した簪とは、温の両親が武庫の鍵を簪に偽装して、息子の髪にさしておいたものだったのである。周は「もし簪を挿してなかったら」³¹⁾と云うと温は「お前は死ににきたのだから、絶対につけているはずだろう」³²⁾と返す。こうしたやりとりからも、二人にとっての簪の意味が透けて見える

だろう。

前述した話の外殻でも確認した通り、温は自分の命を賭して「六合心法」を行って、周子舒に命を与えて亡くなる。そこまでであれば、他に登場する簪と同じように、二人の誓いの象徴であり、そして今生ではそれがかなえられないものとして考えることが可能だ。

だがこのドラマにはおまけがある。「彩蛋」という短い課金動画が優酷では公開された。この中では、周と白髪の温とが雪山の上で、武術の手合わせをしている様子が描かれている。つまり本編終了後になんとかして二人が生き延びた、という解釈も可能になっているのだ。

二人の簪は単純な簪ではなく、温の両親が息子に託した鍵が、二人がなんとか生き延びる道を見つけさせたとも取れるだろう。なお「六合心法」を行なったものは、寒冷の地でなければ住めず、煮炊きしたものを食べられないが、水や氷でほぼ永遠に生き延びることができる^{とされる}。これは二人が神仙として不老長寿を手に入れたと解釈することも可能だが、人間から完全に隔絶されて生きねばならない、というある種の悲劇と読むことも可能だろう。いずれにせよ、円満な結末というわけではない。

以上から、このドラマにおける簪は、二人の人間の生涯をともにする誓いの象徴として描かれており、その根底には「男子薄情、女子薄命」の問題意識から、対等な関係を願い、そしてそれを実践していくメインの男性キャラクターの情愛が示唆されていることがわかった。

5 小結

以上、見てきたように、『山河令』は原作『天涯客』と比較すると、後半部において大きく話の内容が異なり、外殻を見てみると『山河令』は武術の門派の再興話として読むことが可能であるが、その内実はかなり異なる。

原作から性別を入れ替えたキャラクターに着目してみると、そこから重層的な人間関係が描かれていることが見える。「江湖」の好漢たちに裏切ら

れた女性の苦しみや、対等な人間関係を希求する姿が描かれ、それを実践する存在として男性のメインキャラクター二人が存在している。

簪という小道具を使い、将来を誓い合った二人の象徴として、かつそれがうまく運ばない予兆として機能させることにより、シナリオ上には文字として浮き上がらない、主人公二人の情愛関係をも見せる回路を開くことにも成功している。

『山河令』は物語の深層を丁寧に紐解いていくと、秘められた関係が見えてくるように改作されており、メインキャラクターの情愛を見せる点では、原作とドラマとは最終的に一致はするかもしれないが、その根底に流れる対等な人間関係を求めようとする男女どもの旋律は、原作とは別種の物語を描き出していると言えるだろう。

奇しくも『山河令』は、2021年8月末以降中国国内で視聴不可能である。それは、「耽改劇」やそれに登場する男性像が「畸形審美」として批判されていることもあるだろう³³⁾。かつ2021年8月より政府によるファン文化への「清朗運動」などにより中国のエンターテインメントシーンは大きく変わろうとしているように見える。

そうした目まぐるしく動く中国において、外側と内側で大きく物語が違うように見える『山河令』は、それ自体が、外と内が異なって見える現代中国そのものを象徴したかような興味深い作品と言えるかもしれない。その内実をどう読むかは回路を見つけた人に委ねられている。

この作品は演出に工夫を凝らし、古典籍または多くの映像作品を引用して作られており、より深い読みが可能な作品になっている。またファンダムの活動も活発だ。より深く読み解き、そしてこの作品がいかにか中国で受け止められ、いかなる波紋を広げたかは、また機会があれば稿を改めて論じたい。

注

- 1) <https://www.youku.com>
- 2) <https://www.youtube.com>
- 3) 杨佳凝「『山河令』敞开的文本与跨越边界的想象」,『戏剧与影视评论』, 2021年4月
- 4) 『山河令』はいわゆる「張哲瀚事件」の煽りを受け、2020年8月21日に「YOUKU」から下げられた。またその原作『天涯客』も9月30日に掲載されていた晋江文学城で鍵をかけられ、閲覧が不可能になっている。「張哲瀚事件」とは、8月半ばに『山河令』の主演である張哲瀚が、過去に日本旅行をした際に、靖国神社付近の桜並木において撮影した写真のために、靖国神社に参拝もしくは参観したと調査などを経ずに断定され「精日」や「漢奸」とネットにおいて書き立てられ、それを受けて『人民日報』などから名指しで批判され、約数日で社会的封殺にあった事件である。その時にネット上で多くのデマが書かれ、流布されたことがファンの考証で明らかになっているが、張哲瀚の名誉は回復されていない。(2022年1月現在)
- 5) 秦懿「凝视视域下 IP 改编剧『山河令』探析」,『新闻研究导刊』, 第12卷第14期, 2021年7月
- 6) 「青春同性恋题材网剧『上瘾』全网下架」『新京报网』2016年2月23日 (<http://news.sohu.com/20160223/n438213599.shtml> 最終閲覧日: 2021年11月30日)
- 7) 2-1-1及び2-1-2に関しては、邓楠楠 韩敏「“出圈”的耽美: 国内耽美文化发展概述」『重庆科技学院学报(社会科学版)』(2021年第1期)を参照した。
- 8) <https://tynet.cn/baijia/30882633.html> (2021年10月18日閲覧確認)
- 9) IMDbの評点は2020年10月18日確認したものである。(https://www.imdb.com/title/tt12458172/?ref=fn_al_nm_4a)
- 10) 晋江文学城にある Priest 作者專欄には、作品一覧があり、それによると、「夢祭」が2008年8月5日に発表されており、それが記録上では一番古い。
- 11) <https://book.douban.com/series/56232> (2021年10月20日閲覧確認)
- 12) ①としては以下の論文がある。林尊一「浅析网络耽改剧的营销策略」,『视视』, 2020年1月、左伟楠「生态主体关系视角下网络耽改剧产业的良性发展探析」,『视视』, 2021年7月、李胜利・李子佳「从亚文化到主流文化的成功改编——以『陈情令』为例」,『山东社会科学』, 2020年10月②としては以下の論文がある。杜小焯「武侠小说在网络时代的新变——以晋江大神 Priest 作品为例」,『网络文学评论』, 2019年6月③としては以下の論文がある。秦懿「凝视视域下 IP 改编剧『山河令』探析」,『新闻研究导刊』, 2021年7月、周颖嘉・南迪「侠义长存『山河令』, “出圈”的不止“新武侠”」,『世界博览』, 2021年7月

- 13) 原文：乃是一个由探子和杀手组成（第1章）
- 14) 原文：直接效忠于皇帝的组织（第1章）
- 15) 原文：晋王暗中栽培天窗鹰犬
- 16) 原文：实存谋反之意
- 17) 『山河令』の設定資料集（优酷信息技术（北京）有限公司，2021年7月）では「引经据典」として57の古典文献からの引用が書かれている。
- 18) 『中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪——民俗学的視点に基づく考察』勉誠出版（2020年11月）所収「白居易「長恨歌」の試み——かんざしの喪失と破鏡重絵故事——」を参照。
- 19) 原文：「你要是有了心仪的姑娘，师兄替你很高兴」（『山河令』第1話）
- 20) 原文：「之前他曾同我说过，待他卸甲归田，他就会同我一同去居住」（『山河令』第1話）
- 21) 原文：「没想到咱们谷中，还有操办喜事的一天」（『山河令』第34話）
- 22) 原文：「我不是说过，你结婚要给你准备三条街的嫁妆」（『山河令』第34話）
- 23) 原文：「这对簪子是我出嫁的时候师傅给我添妆的」（『山河令』第34話）
- 24) 原文：「别嫌罗姨晦气，这簪子我没有用过」（『山河令』第34話）
- 25) 原文：「没错，我已经成了鬼了，一尸两命，怀着咱们那个未出世的孩儿，一根麻绳勒死在了断剑山庄脚下」（『山河令』第5話）
- 26) 原文：「在天愿作比翼鸟，在地愿为连理枝」（『山河令』第5話）
- 27) 原文：「如今我已经在地下了你就得下来陪我们」（『山河令』第7話）
- 28) 原文：「薄情薄主喜丧鬼，杀尽天下负心人」（『山河令』第7話）
- 29) 原文：「今日便要主持这个公道」（『山河令』第7話）
- 30) 例えば、第二話では、晋の王猷之の「桃葉歌 三」の一部「但渡無所苦、我自迎接汝」が使われている。
- 31) 原文：「要是我没把那簪子带来」（『山河令』第36話）
- 32) 原文：「你是来赴死的便一定戴着它」（『山河令』第36話）
- 33) 例えば以下の記事がある。陈先义「娘炮形象等畸形审美必须遏制」、『光明日报』，2021年8月27日、艺君「警惕耽改剧把大众审美带入歧途」、『人民日报』，2021年8月26日